

# 健全な精神は健康な身體に宿るか

牛 島 義 友

今日體位向上のため健康教育が強調され、體育の問題が熱心に考へられて居る事は實に慶賀す可き事である。私は何も之に抗議を申込む意志はない。併し人は兎角極端に走り、今までは體育が輕視されてたかと思ふに、今度は體育に偏し、子供が健康でさへあれば問題が凡て無くなるかの如く考へる傾向はないであらうか。健全な精神は健康な身體に宿るこの古い金言を文字通りに解して、問題を簡單に考へてよいであらうか。一體身體と精神に如何なる關係があらうか。

先づ身體發育と智能との關係を考へてみる。多くの教育書には兩者の間に密接な關係があり、身體發育のよい者は、學科も亦優れて居るに述べてある。それにはポーター等の古典的研究がよく引用される。彼は一八九〇年にセント・ルイ市三千五百の學童について身體發育と學業成績との關係をしらべた。同じ年齢であり乍ら學年の異なる者、即

ちよく出来る子供は上の學年に編入され、出来ない子供は下學年に停滯して居るが、是等の者の體重を見るに、學年の上の者程體重が重い。例へば九歳兒の例について見るに次の如く、學年の下の智力劣つた者は體重輕く、優秀な智力を示す高學年の者は重くなつて居る。其後の研究者にも

學	年	一年	二年	三年	四年
體重(ポンド)		五五・六七	五七・六四	五九・六六	六一・七五

同様の結果を得て、優秀兒の平均體重は劣等兒のそれよりも重いに結論されてをる。是等の結果からして、智能と身體發育とは密接な關係があり、優秀な學力を養ふには、先づ體力から養はねばならぬに結論して居る。

併し以上の數字からそう簡單に右の結論が引出されるものであらうか。少しく専門的に互るが、人は兎角數字のトリックにかゝり、數値を正しく讀む事が出来ない故に、批判的に此數字を吟味して見よう。素より全體的に見て智能

の優れた者は劣つたものよりも、少しく體重が重い云ふ事實を疑ふのではない。併し之から一々の子供を捉へて、體重が重い子供は其智能も優秀であり、體重の軽い子供は智能が劣つて居るを判断する事が出来るであらうか。身體發育状態から智能を推定してよいものであらうか。此點に疑問があるのである。例外がある云ふよりも、例外の方が遙かに多いのではなからうか。今前記の數字の原になる表を示さう。此表は九歳兒を各學年別に體重の分布状態を示したものである。之を見るに各學年には色々な體重の者が居り、智能劣等な一學年生の中にも八十ポンド臺に達す

體重 (ポンド)	一年	二年	三年	四年
86—90		2		
81—85	1	2	3	
76—80		10	8	2
71—75	8	24	15	4
66—70	17	93	36	6
61—65	99	236	90	13
56—60	155	334	91	10
51—55	169	343	81	6
46—50	86	122	21	3
41—45	29	25	5	
36—40	5	1	5	
31—35	1	3	2	
合計	570	1195	357	44
中數	55.87	57.64	59.66	61.75

る者もあり、反對に智能優秀で四學年に編入された者にも五十ポンドに達しないものが居る。今體重と學力との關係数を調べてみるに〇・〇六にしかならない。此關係数は體重一番の者が學力も一番であり、體重二番が學力も二番云ふ風に、兩者が殆ど完全に一致する場合は〇・九九云ふ一に近い値が出る。之に反し兩者に殆ど關係が無い場合には〇・〇〇に近い値が出て来る數字である。故に〇・〇六云ふのは兩者の關係が極めて薄く、殆ど無關係である云ふ事を物語る値である。體重が重いから智力も優れて居るだらうと推定する事はさんでもない誤謬である事を示す數字である。一般に二つのもの之間に眞に關係が在るか否かは關係數から調べなければならぬ、唯平均値だけから考へるのは誤である。

此關係數で調べた研究は其後實に澤山現れたが、きの研究に於ても高い數字の現れたものはない、二三例示するならば、

一九二三年にムルドックとサリバンがホノルルの六百名の生徒に就いて調べた結果は

智能と體重との相關 〇・一六

智能の身長との相關 〇・一四

一九二四年ゲーツが幼稚園児に就て調べたのでは

智能ミ體重 ○・一〇

智能ミ身長 ○・〇六

一九三五年藤本克巳氏が東京の千名の女生徒について調べたのでは

智能ミ身長 ○・〇四

智能ミ體重 ○・〇三

智能ミ胸圍 ○・〇一

以上は比較的大きな子供に就いてあるが、乳幼児ではさうであらうか。赤ちゃんを持つ母親の第一に氣になるのは其體重である。健康相談に行き、體重が標準以上だ喜び、家の子供は何ヶ月児と同じ位の體重があるのだと喜ぶ。體重は榮養状態のバロメーターとして常に注意してをる必要があるが、之が標準以上ならば、精神の發育も同様に進んでをるに安心してよいものだらうか。筆者等が最近三百名の乳児に就いて調べた結果は次の如くなる。

五ヶ月 六一十一 満一歳児  
未滿児 ヶ月児

精神發達と體重の相關 ○・三二 ○・二一 ○・一一

精神發達と身長の相關 ○・三八 ○・二一 ○・一九

即ち年齢によつて相違し、滿五ヶ月以下では少しく關係

はあるが、年と共に其關係は薄くなる。

以上の事實は智能ミ身體發育状態には直接の關係はなく、身體強健なれば精神も優秀に斷ずる事は非常に誤りである。又自分の周圍の人々を顧みても、體が小さくて賢い人も多く、體が大きくて鈍い者もあり、兩者無關係だ云ふ事に得心が行かう。

頭骨發育ミ智能 體重や身長ミ智能ミ關係がない事は或は最もかもしれないが、頭蓋骨の發達ミ智能ミなら深い關係がありさうである。ガルの骨相學では前額の發達したものは聰明である云ふし、人種學者は各人種の頭の大きさを比較して居る。即ち次の如く歐洲人の智能が優秀なものには頭が大きく發達して居る云ふ生物學的根據があり、其中でもバリー市民が最優秀だミ自負する。

類直	方	621
人立	855	
猿人	1277	
(セイロン島土人)	1300	
エタマン島人	1340	
グダストラヤ原住民	1350	
オースグロヌ人	1462	
ネアグイ洲市民	1490	
ア欧	1555	
パリー		

又白痴の中には頭の非常に小さな者も居る。

斯る處から頭骨の發達ミ智能ミの間に密接な關係があるミ信する様になつた。ゴールトンやビネー程の偉

係があるミ信する様になつた。ゴールトンやビネー程の偉

大な學者でも此考を固執して、何さか實證し様とした。一八八八年ゴールトンハ本の測定した一〇九五名のケンブリッチ大學生の頭蓋容積と學業成績との關係を引用して、優秀人と普通人との間には約五%の差がある云つて居る。

併し其表をよく調べるに次の如く、二十一歳、二十四歳、二十五歳の處では成績と平均容積とが一致してない。斯く

年 齡	最優秀	優 秀	普 通
19	241.9	237.1	229.1
20	244.2	237.9	235.1
21	241.0	236.4	240.2
22	248.1	241.7	240.2
23	244.6	239.0	235.0
24	245.8	251.2	244.4
25以上	248.9	239.1	243.5

上表の如くなる。(註) 數字は頭長、頭巾、頭高を掛け合せた數字である)

大學生 男生徒 女生徒

學業成績と頭長 ○・一 一 ○・一四 ○・〇八  
 學業成績と頭幅 ○・一〇 ○・一一 ○・一一

其他の研究者の結果も同様で、ムルドックとサリバンの

研究では〇・二二、リットミムリガンの研究では〇・〇八等となつて、頭の大さと頭の良さとの間には關係が無い云はねばならぬ。自分の頭が少し小さいから悲觀するに及ばず、大きいから自慢にならない。帝大醫學部には桂公の頭蓋骨が保存されており、公はずば抜けて大きな頭を持つてた云はれるが、之から彼の偉大性は其頭蓋骨に在るに考へるのは學問的にはナンセンスである。低能の中には頭の小さな小顛も居るが、大き過ぎる福助頭も居る。

最も精神薄弱者の中には體の虛弱な發育不完全な者も多く、其平均壽命も短い。ディトンの調査によるに輕患四六・八年、痴愚三八・四年、白痴二一・三年となつて居る。併し之は體の弱い事が低能の原因ではなく、低能である爲に不衛生や、怪我等が多い爲だつたり、又低能と身體虛弱が雙方其他の原因による爲である。故に如何に身體を健康にしたからして精神薄弱が治るものではない。唯栄養障碍や内分沁不完全、黴毒等から出た少數の精神薄弱の場合だけ體の方を治せば智能もよくなる。

以上は専ら統計的に考へたが、個人的に考へるに話はずみ複雑になり、身體發育が色々な形で精神に影響して来る。併し決して單純に身體が健康であれば精神も健全で

あるは云へない。

例へば體の大きな子供が同年齡の者と一緒に遊んで、何かいたずらをすれば代表して叱られるのは此子供である。彼は悪事をそゝのかしたと誤解される。だから云つて年長の者も遊んでも巧くゆかない、精神の方が體程に發育してないために一緒に遊べず兎角孤立する。又體のこなしも巧く行かず、動作が鈍かつたり不器用で低能視される事がある。斯る子供は精神の平衡を失ひ、非社會的になり困つた子供になる事すらある。

次に體が小さかつたり、病弱不具である場合は一般には健全な精神を缺く。併し子供による體が弱く、相撲や馳つこでは到底勝味がないと知るや頭でこい云つた態度をさり一心に勉強する事がある。チビの生徒に比較的學科のよく出来る者が多いのは此爲である。偉人學者の中には體の虛弱、短軀、不具等の者が割合に多いとロンブローズ等は云つてる。又健康な肉體に恵れ乍ら、輕薄な虛榮的、利己的な人間も多く、病弱であるが故に信仰に生き、美しき魂を持つて、人を教化する者も多い。

故に健全な精神は誰に宿るか云ふ事は一概には云へず、體の良否、發育如何に歸せしめる事は出来ない。健康

な子供の精神を健全にする爲には體育以外の精神的指導が必要であるし、又指導如何によつては不健康な者に健全な美しき精神を懐かせる事が出来る。精神の問題は精神教育にある。

御民吾生ける驗あり天地の榮ゆる時にあへらく  
念へば

千萬の軍なりとも言擧せず取りて來ぬべき男と  
ぞ念ふ

今日よりは顧みなくて大君の醜の御楯も出で立  
つ吾は

—— 萬葉集より ——